

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 1	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b> Lifetime and baseline alcohol intake and risk of colon and rectal cancers in the European prospective investigation into cancer and nutrition (EPIC). がんと栄養に関するヨーロッパ前向き研究におけるアルコール生涯摂取量および基礎摂取量と結腸・直腸がん発症危険率	
<b>執筆者</b> Ferrari P, Jenab M, Norat T <i>et al.</i>	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Int J Cancer. 121(9): 2065-2072 (2007)	
<b>キーワード</b> アルコール、生涯飲酒、結腸がん、大腸がん、危険因子、前向き研究	
<b>要 旨</b> <p>                             アルコール消費は結腸・直腸がん (CRC) の危険性と関係していると考えられているが、発症の解剖学的な部位の特異性やアルコール飲料の種類、現在の飲酒量と生涯飲酒量の影響の違いなどに関連した疫学の結果は一致していない。がんと栄養に関するヨーロッパ前向き研究 (EPIC) のなかで、1992 から 2000 年の間に登録された、がんに罹患していない 478,732 人の被験者について平均 6.2 年の追跡調査が実施され、その期間に 1,833 人が CRC を発症した。アルコール飲料消費の基準値 (全例) と生涯飲酒量 (1,447 の CRC 症例) についてはインタビューによって詳細な情報を収集した。アルコールと CRC の関連性は Cox 比例ハザードモデル (Cox 回帰) を用いて検討した。交絡要因の調整後、アルコール生涯飲酒量と CRC の発症危険性との有意な相関が認められた (危険率=1.08、<math>P&lt;0.001</math>)。CRC のなかでは遠位結腸 (危険率=1.08) や近接結腸 (危険率=1.02) よりも、直腸でのがん発症危険率が高かった (危険率=1.12)。同様の結果はアルコール基準値飲酒量の場合でも認められた。アルコール飲料の種類によって検討した場合、統計的な違いは得られなかったが、CRC の危険性はワイン (危険率=1.21) よりもビール (危険率=1.38) の方が高かった。葉酸摂取量との関係から検討した結果では、アルコール基準値摂取量のなかで CRC の危険性の最も高かったのは低葉酸摂取グループであった (危険率=1.13)。                         </p> <p>                             このヨーロッパ大規模コホート研究の結果、生涯飲酒と基準値飲酒の両方が結腸・直腸がんの発症危険性を高めることが示された。CRC 発症の危険性はアルコール摂取量が 30 g/日以上の場合に一層顕著になる。                         </p>	